

ちょうふ未来会議
(調布市基本計画策定に関するタウンミーティング)
の開催結果について

後期基本計画策定過程における市民参加の実践の一つとして、市民と今後の調布のまちづくりへの想いを共有し、意見交換することを目的に、「ちょうふ未来会議」を開催しました。

開催に当たっては、無作為抽出した市内在住満16歳以上の市民1000人への案内状の送付、市内イベント開催時におけるチラシ配布、市内高校・大学等でのチラシ配架などの周知を行いました。

ちょうふ未来会議当日は、事務局より後期基本計画の検討状況、次期行革プランや公共施設マネジメントの取組等の全体説明を行った後、市民と市職員（基本計画策定庁内検討プロジェクトチーム※のメンバー）が参加し、ワールドカフェ方式のワークショップによる意見交換を行いました。

※基本計画策定庁内検討プロジェクト・チーム

基本計画の策定における検討体制として、若手・中堅職員で構成

1 開催日時等

	日時	会場	参加者数
第1回	平成30年11月4日(日) 午後1時～午後4時	市民プラザあくろす 3階あくろすホール	32人 (うちPTメンバー7人)
第2回	平成30年11月7日(水) 午後6時30分～午後9時	教育会館3階 研修室	32人 (うちPTメンバー9人)
第3回	平成30年11月11日(日) 午後3時30分～午後6時30分	教育会館3階 研修室	24人 (うちPTメンバー9人)
合計			88人

(参考) 平成24年度タウンミーティング 56人
 平成26年度タウンミーティング 35人

2 主な意見の要旨

【防災・防犯】

- 地域における防災、防犯においては、挨拶による声掛けが重要
- 地域で気軽に参加できるイベントなどを行い、互いの顔が見える関係を構築することで安心・安全につながるのと同時に、高齢者の生きがいやコミュニティ意識の醸成につながる

【福祉・子育て・学校教育】

●福祉

- 地域イベントの開催などを通じて、高齢者などが生きがいを持てるようなまちづくり、安心して住み続けられるまちづくりを
- 挨拶による声掛けにより、地域の高齢者・障害者をはじめとした地域住民との顔見知りが増え、高齢者や障害者などの見守りにつながっていく

●子育て

- 男性の育児休業の取得を促進し、男性が育児に参加する意識醸成が重要。女性の働きやすさ、女性活躍の視点が大切
- 子どもを産みやすい・子育てしやすい環境づくりのため、保育料・給食費等の資金面での支援の充実も必要
- 企業内保育所の奨励など、多様な保育ニーズへの対策を行ってほしい
- 地域のコミュニティの場をつくり、そこに集まった人と協働しながら、子育ての悩みなどを地域で解決できる仕組みづくりが必要

●学校教育

- 学校教育の現場では、いじめや不登校、発達障害などを背景に生徒の抱える問題が複雑化している。学校と家庭、地域が連携し、様々な問題を解決できる仕組みづくりが必要



<後期基本計画等に関する説明の様子>

【にぎわい・環境】

●にぎわい

- 調布駅から深大寺までの案内サインの整備やシェアサイクル・レンタサイクルを活用し、回遊性を高めていくことが必要
- 調布駅周辺の「トリエ京王調布」や「シアタス調布」のにぎわいを高めつつ、深大寺やカニ山、野草園、神代植物公園といった魅力ある自然を保全することが大切
- 深大寺、神代植物公園や多摩川といった自然の魅力、調布駅前をはじめとした調布の街の魅力を2019年・2020年に向けて市内外にPRしてほしい
- 多言語対応をはじめとしたインバウンド対策の推進を
- 高校生フィルムコンテストの認知度向上などを通じて、次代を担う子どもたちに「映画のまち調布」のPRを



<ワークショップの様子>

●自然環境

- 生物多様性や資源循環を意識した持続性のあるまちづくりが必要
- 深大寺、多摩川、野川などの調布の魅力ある自然と、利便性のある駅前の市街地とのバランスが重要
- 調布の自然を「東京の里山」として、子どもたちに残していきたい

【交流・参加と協働】

●交流

- 地域コミュニティの場として、空き家や空き店舗を有効活用してはどうか。そのため、所有者と活用したい人とのマッチングを行うコーディネーターの創設を
- 自治会に子どもが参加できる仕組みを。子どもが参加することで、保護者を含めて地域住民の参加を促し、地域コミュニティの活性化につながるのでは
- 地縁のない地方出身者、定年を迎えても元気な高齢者、在住外国人などが気軽に集まり、対話ができるコミュニティカフェやサロンのような居場所をつくり、人と人がつながるまちづくり
- 学校の空き教室を活用するなど、地域住民が気軽に集うことができる拠点づくりを



<グループ発表の様子>

●参加と協働

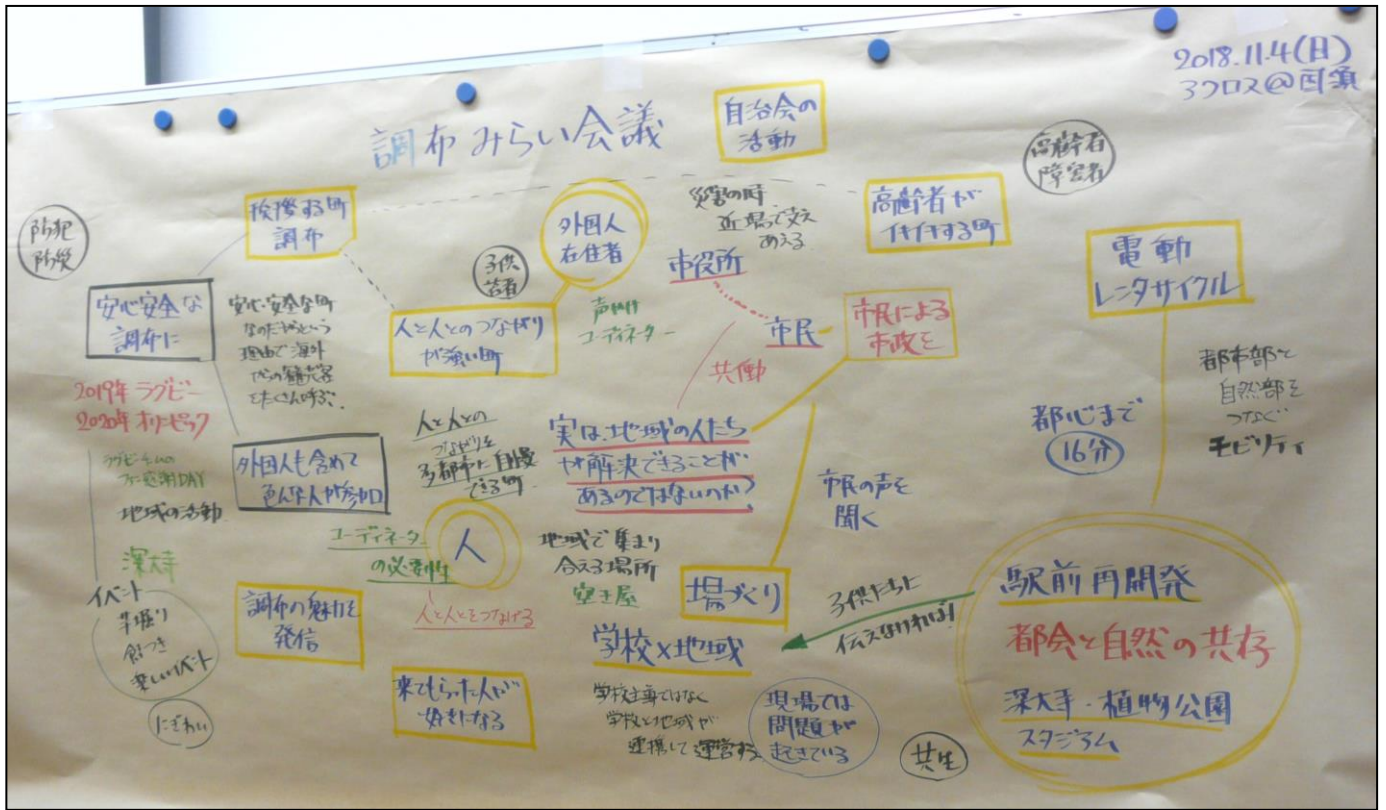
- SNSを活用して地域の課題の見える化を行うことで、支援を必要とする方と支援したい方とのマッチングができるのではないか
- 市民活動グループ同士の交流が生まれる開かれた空間の創出を
- 今回のワールドカフェのような出会いの場・ふれあいの場を作っていくことで、市民同士、市と市民による協働事業の推進が図られるのではないか
- 市や市民の様々な意見を聞き、多様な交流が生まれる場として、ワールドカフェを定期的開催してはどうか

ちようふ未来会議の感想（参加者アンケートより）

- 市政に関する知識がなくても、自分の想いや考えを言う機会が多く楽しむことができた
- このワークショップの構想から発展して、テーマ別の問題を幅広い世代を交えた対話の場を多く作ってもらいたい
- 和気あいあいとして、色々な意見が出て良かった。自分自身の勉強になった
- 貴重な意見を聞いたり、自分たちでまとめたりすることで様々な角度から市について考える良いきっかけになった
- 他の市民と会話をする機会は貴重だと思った。ぜひ継続してほしい
- 市の職員と話すことがあまりないので、ワークショップを通じて意見交換ができてよかった
- 初めてワークショップに参加したが、話しやすい雰囲気、思っていたより敷居が低かった今後も参加したい
- 個別の内容について、直接、市に対して意見を言う機会がなく残念だった
- ワールドカフェでは10分間隔で席替えをすることから、もう少しゆっくり話したかった

ワークショップを通じた意見のまとめ

< 第 1 回 >



< 第 2 回 >



